

新十津川中だより

新十津川中学校
学校通信
発行
平成 23 年 11 月 30 日

龍を育てる



新十津川中学校長 高瀬裕二

ブータン王国、ワンチュク国王夫妻が、被災地福島県相馬市にある桜丘小学校を訪れた際、ブータン王国のシンボルである『龍』のお話をなされました。

『龍』は水を飲むでしょうか。水を飲めば『龍』の口からせっかく出している炎を消されると思いませんか？と優しく子どもたちに話しかけます。



『龍』は自分の体験の上に存在し、一人ひとりの心のなかに、経験によって大きくなる『龍』がいます。私たち一人ひとりの中に『人格』という名の『龍』を持っています。だから、年をとるほど経験と共に大きく、強くなるのです。大切なことは、自分の『龍』を鍛錬して、感情などをコントロールすることが大切なのです。成長するに伴って、自分の『龍』を大きく素晴らしく育てていって欲しいのです。

ワンチュク国王は、ブータン王国の子どもたちにも「自分の『龍』を養いなさい」とお話しして聞かせるそうです。そのニュースを聞きながら、私は平成 17 年にお会いし交流を深めた、ブータン王国の若き校長先生方を思い出していました。

平成 17 年 12 月 7 日はブータン王国の 20 歳台の若き校長先生方 10 名をお招きし、当時勤務していた中学校で全日公開交流を行いました。ブータン王国は新しい文化によって大切な文化が滅びないように、入国を厳しく制限している国です。若き校長先生方は民族衣装「ゴ」を身につけ教室にやってきました。

手鏡を見ながら自画像を描き上げる美術の授業を見て、「私の学校では、このような授業はできない、全員が手鏡をそろえることができないのです。」「私の学校は、街から徒歩で 3 日かかります。途中

で雪ヒョウ (Snow leopard) に出会うことがあります」「日本は施設が十分に整っています。生徒達は、吹奏楽の楽器には触れたことはありません。

「しかし、国王と共に、“子どもは未来からの宝物”の気持ちで教育を行っています」と誇らしげに話してくれました。

数学の教師が教えるマニュアルのようなものがあるのですが、その第 1 ページにこう書いてあります。「君は数学を教えるために教壇に立つのではない、ブータンの将来を担う人間をつくるために教壇に立つのだ。それを忘れるな」と。まさに風が吹き、心が揺れた一日でした。

私は、改めて何のために勉強をするのかを教えられました。



※WEBにて新十津川中学校の様子を発信しております。

WEB 校長室 青雲の志【<http://www1.odn.ne.jp/~aao32720/index.shtml>】